

錦タイムズ#5 錦町立錦中学校 令和3年3月24日

## 熊本県学力・学習状況調査について

令和2年12月1日(火)に1・2年生を対象に熊本県学力・学習状況調査を実施しました(「国語」、「数学」、「英語」)。この調査は、生徒が自分の「学び」を自覚し、主体的な学習につなげることや学校全体の課題把握及び生徒一人一人の課題克服につなげること等をねらいとしています。

本校では、2月に出た結果を受けて、全職員で課題を共有し、生徒一人一人に対して、課題分析を行い、個人面談を実施しました。現在、学充タイムを設定し、個人別復習プリントや弱点克服ドリルに取り組んでいます。その結果と具体的な対策等を以下に記載しておりますので、ご家庭での学習にご活用ください。

### 令和2年度 熊本県学力・学習状況調査「全体分析」

- ◎ 本校と県の平均正答率の差を比較すると、昨年度の結果に比べ、2年生で国・数・英の基礎・活用の6項目中5項目において昨年の結果を上回ることができた。3教科すべてにおいて改善傾向にあると判断できる。
- ◎ 数学は基礎・活用ともに県平均を上回っており、今年度の基礎的・基本的な知識・技能の習得や活用する力の育成に関する取組が成果につながったと思われる。
- △ 本調査では書く力に課題が見られた。特に、国語科の作文の問題では目標値を下回った。朝の視写活動では「書き写す(単純に書く)力」は伸ばせたが、「自分の考えや思いを書いて表現する力」の育成には不十分であり、さらなる工夫・改善が求められる。
- △ 1・2学年ともに、男女それぞれの平均正答率の差が顕著(女高男低)である。
- △ 「i-check」では、2年生の「規範意識」、1年生の「生活習慣」が標準スコアを下回っている。ともに、授業中の学習規律や集中力に影響を及ぼすため、改善に向けた啓発が必要である。

### 令和2年度 熊本県学力・学習状況調査 各教科における「課題」と「対策」

#### 【2年生】

##### (1) 国語

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 「漢字(小学校の学習漢字)を書く」ことに課題がある。</li> <li>② 「文法・語句に関する知識」に課題がある。</li> <li>③ 「読む能力」、特に「文学作品の内容を読み取る」ことに課題が見られた。</li> <li>④ 「作文」の無答率が高い。</li> <li>⑤ 学力差が大きく、個に応じた指導が必要である。</li> </ul>
対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校で習った漢字を含め、学習した漢字を文や文章の中で使う指導を、授業や学校生活の中で継続的に行っていく。</li> <li>・ 「漢字」「文法」「語句」については、3学期内に復習の時間を設定し定着を図る。また、錦学タイムを活用して、定着を図っていく。</li> <li>・ 「読む能力」を高めるために、文章の構成や展開を捉えたり、登場人物の心情の変化を捉えたりする指導を充実させる。</li> <li>・ 授業の中で「書く」機会を増やし、書くことへの抵抗感を減じていく。</li> <li>・ 特に、学力低位の生徒に対して、基礎・基本の指導を繰り返し行う。</li> </ul>

##### (2) 算数・数学

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 一次関数の学習内容における、グラフと式の関係に課題がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一次関数の式からグラフをかくことができる。</li> <li>・ グラフが方程式の解の集合体であることを理解している。</li> <li>・ <math>x</math>軸に平行になる方程式を理解している。</li> </ul> </li> <li>② 図形の性質や証明の基本的な学習内容の一部に課題がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内角、外角の性質を用いて角の大きさを求めることができる。</li> <li>・ 図形の証明の根拠となる性質について理解している。</li> <li>・ 三角形の合同条件について理解している。</li> </ul> </li> </ul>
----	--

対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①②ともに、年度末(3月)における年間学習内容の振り返りの段階において、課題が見られた内容に関する確認を行う。</li> <li>・①②ともに、休日の家庭学習課題や朝自習テスト問題として取り扱う。</li> <li>・①は、3年次の関数 <math>y = ax^2</math> の学習において、スパイラル式に振り返り、学習理解への徹底を図る。</li> <li>・②は、3年次の相似の学習において、関連付けながら学習を行う。</li> </ul>
----	---

(3) 英語

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>①全体として、県平均を大きく下回っている。その中でも特に、領域別では「読むこと」「書くこと」、観点別では、外国語表現の能力と、言語や文化についての知識・理解が大きく落ち込んでいる。また、基本よりも、活用に関する分野に生徒の困り感が強いことが分かる。</li> <li>②場面に応じて書く英作文の正答率が低い。疑問詞を用いて対話の流れに沿った疑問文を書くことに課題がある。</li> <li>③「読むこと」の領域では、絵や表を見ながら、様々な情報を整理し答えを導くなど、根気強く長文を読み解く力に課題がある。</li> </ul>
対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英作文には取り組んできたが、目的・場面・状況を明確にした言語の使用ができていないということがわかる。テーマや場面に合った英作文の時間を設け、生徒の表現力の育成に取り組んでいきたい。</li> <li>・領域別では「聞くこと」が県平均を上回っている。また、観点別では「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「理解の能力」が、県平均と比べて低いながらも他の分野よりは、困り感が低いことがわかる。そのため、生徒の得意を活かして、学習に取り組めるような授業改善をしていきたい。</li> <li>・年生はまとまりのある長い文章を読み取ることに不慣れであるため、語彙力を増やしたり、正しい文法を身に付けさせたりするだけでなく、生徒たちが、興味、関心がある数多くの英文に触れさせ、内容を読み取る力を育てていきたい。</li> </ul>

【1年生】

(1) 国語

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>①国語への興味関心が低い生徒が多い。無答が多く、学級によっては50%を超える生徒が作文に取り組めていない。</li> <li>②全ての観点において下回っている。問題文の意味を理解できない生徒が多い。(語彙力の不足・学力の差が激しい)</li> <li>③文字を「書く」ことを苦手としている生徒が多い。</li> <li>④登場人物の心情や内容はとらえることができる生徒が多いが、自分の考えをまとめ、表現することに課題がある。</li> </ul>
対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の授業の中で、辞書や新聞を活用する。</li> <li>・漢字については、短時間で集中して覚える時間を設定する。</li> <li>・授業の中で、課題に対する自分の考えを「書く」「発表する」「まとめる」活動を大切にする。</li> <li>・本を読まない生徒には、良書を紹介して日常的に文章に慣れさせる。</li> <li>・学級担任と連携し、日々の日記やプリント類をきちんと書かせる指導を行う。</li> </ul>

(2) 算数・数学

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>①数と式領域に課題がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・累乗の計算ができる。</li> <li>・絶対値・数の集合と四則計算の可能性・文字式の表し方・移項について理解している。</li> <li>・文章問題を解くための方程式を立式することができる。</li> </ul> </li> <li>②基礎・基本の知識・技能を活用することに課題がある。(−5.0) <ul style="list-style-type: none"> <li>・正方形を6個つくるのに必要なストローの本数を求めることができる。</li> <li>・2つの数量の関係が比例であるとみることができ理由を、グラフの特徴から指摘することができる。</li> <li>・与えられた比例の式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができる。</li> </ul> </li> </ul>
対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・錦トレテストや授業時の小テストで重点的に出題し、定着を図る。また、家庭学習の課題を個別に与え、添削指導することで、基礎・基本を確実に身に付けさせる。</li> <li>・県学調の復習プリントや弱点克服ドリルを用いて演習を行う。また、各単元における学習内容の活用段階で、問題解決型学習による授業展開を行い、生徒の思考力・表現力を高めていく。特に関数領域の指導においては、県学調や全学調の過去問題を利用しながら、表・式・グラフを活用する力を伸ばす。「実験結果からグラフを作成し、理想化した関数と見立てる」という考え方は、一次関数の学習で再度指導していく。</li> </ul>

(3) 英語

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>①単語の並び替えによる英作文の正答率が低いことから、文法事項の定着に課題がある。</li> <li>②場面に応じて書く英作文の正答率が低い。特に、目的・場面・状況に沿って生徒が自ら英文を書く力に課題がある。</li> <li>③モデル文を参考に英文を作成できるが、その英文を他の場面や状況で活用するための適切な場面の設定に課題がある。</li> </ul>
対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的・場面・状況に合わせた英文を「書く」活動を文法ごとに設け、生徒が自ら考え、英文を作成する機会を増やす。</li> <li>・英文を活用する目的・場面・状況が子供にとってより身近で、日常的なものを選択する。</li> <li>・作成した英文を使って、発表する活動や、似た状況を設定して、生徒自ら英作文に挑戦するような活動が十分にできていなかった。</li> <li>・英文の作成だけにとどまらず、作成した文を発表し、他の生徒と学びを共有し合える学習にする。</li> <li>・生徒の書いた英文をチェックし、文法や語彙の活用の仕方を個別に指導する。</li> </ul>

**春休みの課題を活用し、お子様の課題にも取り組ませてください！**